

新治小学校だより



ひびく心 はずむ体 見つめる目
～新治のよさを持続して生かしながら、
よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和5年度
11月号
令和5年10月31日



地域の方たちに支えられた学びの場

副校長 青木 直美

早いもので、後期が始まり1か月がたとうとしています。気候も涼しくなり、校外での活動がしやすくなってきました。10月は5年生の心の教育ふれあいコンサートに始まり、1・2年生のズーラシア遠足、11月には6年生の心の劇場観劇、全校での新治ラリー、4・5年生の上郷宿泊体験学習と続きます。子どもたちは、事前の学習、当日の体験、事後の振り返りを通して、教室での授業では得られない多くのことを学ぶことができると期待しています。



校外での活動以外にもわくわくの時間を軸に教室を出ての体験的な学習に各学年が取り組んでいます。2年生では生活科の野菜を育てる単元で、前期からサツマイモづくりに取り組んでいます。サツマイモについて自分たちで調べて育てているのですが、わからないことや疑問に思ったことがあると、私のところに聞きに来ることがあります。「副校長先生、最近全然雨が降らないけど、サツマイモの畑に水をやらなくて大丈夫かな?」「すぐに雑草が育ってしまって雑草を抜くのが大変。雑草どうにかできないかな。」などなど。サツマイモづくりでは、畑を貸してくれる方、サツマイモの苗を用意してくれ

る方、児童が活動しやすいように整備してくれる方、学習を手伝い、サツマイモづくりについて教えてくれる方と、多くの地域の方に支えていただいています。畑づくりでは自宅から持ってきた草刈り機で雑草を刈り、耕運機で耕し、畝を作って、シートを貼る。これらの大変な作業を笑顔でして下さります。これらの学習を支えてくださる協力者と学校をつなぐ連絡調整をしていると、子どもたちのために時間を割いて支援して下さる姿に感謝の気持ちが絶えません。苗が足りないかも、という話を聞きつけると追加で届け、苗を植えるときには一人ひとりに植え方を丁寧に教えてくれます。子どもが水やりの心配をすれば、サツマイモは水はたくさんやらないほうがいいと教えてくれ、雑草の相談をすれば、藁を用意し、子どもたちと一緒に畝と畝の間に敷く作業をしてくれます。サツマイモが小ぶりのことを児童が心配していると聞くと、「土を作ったほうがいいかな」と、サツマイモを掘った後の土壌の改良を考えてもくれます。児童の学習スケジュールに合わせて都合をつけ、学校に来て支援をして下さる、本当に頼りになる存在です。2年生だけではなく、5年生の田んぼの活動でも、田を貸し、苗を用意してくれる方や、田んぼの作業を教えてくれる方、児童の活動を助けてくれる方、3年生の川の活動では川の生き物について、4年生の森の活動では森の自然について教えてくれたり、活動を助けてくれたりする方など、本当にたくさんの人たちに支えられ、助けられ、学習が成り立っています。新治の自然を材とした、新治らしい学びに地域の方たちとともに取り組めることが本校の強みであり、これからもこのつながりを大切にしていきたいと思えます。